

道の駅・オホーツク紋別

熱き流水ゾーンの体験と
感動のまちをめざして



紋別市流水都市推進室長

島村 衛

「流水」といえば、皆さんは何を最初に思い出されますか？

サハリンやオホーツク海でしょうか。また、流水砕氷船ガリンコ号や流水観光船オーロラなどを思い浮かべられる方もいるでしょう。

今回は、その流水をまちづくりに生かしている「道の駅・オホーツク紋別」についてご紹介します。

紋別市は、オホーツク海沿岸のほぼ中央に位置する人口3万人弱の、豊かな自然環境に恵まれた中堅都市です。その面積は830.36 km²と広大で、全国の市では5番目、全道では3番目の広さを有しています。

紋別という名称は、アイヌ語の「モウペツ（静かな川の意）」に由来し、明治2年にこれを「紋別」としました。

この地域には江戸時代、漁場として松前藩宗谷場所がありました。その後、幾多の変遷を経て、明治13年、この地に紋別戸長役場が開設、この年を「開基の年」と定め、今年で開基120年を迎えることになりました。



オホーツク流水科学センター「ギザ」

では、この紋別市と流水の関係を調べてみましょう。

冬場になるとオホーツク海一面を埋め尽くす流水は、漁業を基幹産業としている紋別市にとって大変厄介なものでした。しかし、その流水を利用し

た「第1回紋別流水まつり」が昭和38年に開催され、流水との共存が始まりました。その2年後の昭和40年には、北海道大学低温科学研究所附属流水研究施設が開設され、流水のメカニズムの科学的な研究が開始されました。昭和50年には流水展望台が完成、昭和61年、流水を研究する科学者が海外からも一堂に会して、「第1回北方圏国際シンポジウム」が開催されました。このシンポジウムは、その後毎年開催され、大きな成果をあげています。

昭和62年、流水砕氷船「ガリンコ号」が就航。平成元年には流水研究国際都市をめざした「第3次紋別市総合計画基本構想」が策定され、平成2年から3年にかけて、流水ワールドガリヤゾーンに紋別市健康プール「ステア」、北海道立オホーツク流水科学センター「ギザ」が相次いで完成。そして、平成7年「道の駅・オホーツク紋別」が誕生しました。

そして、この道の駅があるガリヤゾーンには、次々と新たな施設ができてきました。平成8年、世界初の氷海海中展望塔「オホーツクタワー」と親水防波堤「クリオネプロムナード」がオープンしたのをはじめ、平成9年、新流水砕氷船「ガリンコ号(艦)」が就航。平成11年、ガリヤゾーンに人工海水浴場「オホーツクもんべつホワイトビーチ」が完成。アザラシを飼育するゴマちゃんランドも完成し、流水の研究と体験観光を基本とした施設が整備されました。



オホーツク健康プール「ステア」

では、この道の駅を中心とした見どころや遊びどころなどを少しご紹介します。

道の駅のインフォメーションは北海道立オホーツク流水科学センター「ギザ」にあります。

ここでは、神秘的な流水とオホーツク海を科学的な視点から楽しく学べるように工夫され、一年中ホンモノの流水を体験できるように、マイナス20度の厳寒体験室が設けられています。また、360度の全天周映像が楽しめるアストロビジョンは、あなたを知らないうちに流水の世界へ飛び立たせてくれるでしょう。

この科学センターの手前に24時間オープンの公衆トイレ「サワヤカーL」があります。それを挟むように一年中常夏のアクアゾーンオホーツク健康プール「ステア」が建っています。

ステアで一番の人気は、全長86mと35mからなる2本のウォータースライダーです。さらに、2基あるイルカの滑り台はチビッコにモテモテです。大人も子供も一番利用しているのが全長80mある流水プールです。ここでは水の特性を最大限に利用した水中ウォーキングが行われています。そのそばにはジャグジーと摂氏90度に保たれた男女別のサウナが用意され、一日の疲れを取り除いてくれます。そのほか25mの公認プールやコンビネーションマシンをはじめ各種のトレーニングマシンを取り揃えたトレーニングルームがあり、若い女性達にも人気です。

ステアから海をみると、間近に世界初の氷海海中展望塔「オホーツクタワー」がそびえ立っています。

ここには、レーダーによる流水の画像や温度分布をリアルタイムで観測できるカメラが設置され、科学的な観測結果を分かりやすく知ることができます。また、海底階には、直径23mの海底自然観測室があり、大小16個の窓から肉眼で流水の底を見ることができます。流水が接岸する季節にしか見ることのできないコオリガモの海中に潜って餌を取る豪快なダイビングは

訪れた人々を驚かせてくれるでしょう。そして、いま最も人気のあるのが、夜の海中観察です。そこでは、ほかで見られない恐ろしいまでに激しい自然界の掙(ドラマ)が見られます。また、オホーツクタワーまでのアプローチは、515mの「クリオネプロムナード」(親水防波堤)で結ばれ、あたかもタイムトンネルに入ってしまったかのような錯覚をおこす人気のデートスポットでもあります。



「ガリンコ号Ⅱ」と流水

「流水」といえば「ガリンコ号」、「ガリンコ号」といえば「流水」というくらい全国的に有名になってしまいましたが、流水の時期の主役は、やはり「ガリンコ号艦」です。

1月下旬から3月下旬にかけてオホーツク海を埋め尽くす流水原を巨大なドリルでガリガリ砕きながら進む流水砕氷船「ガリンコ号艦」。氷を砕く震動は体に直接伝わり、乗った人だけにしか体感できない迫力と快感です。紋別沖にはゴマフアザラシをはじめ、イルカやセミクジラなどの哺乳類が生息していますが、冬には流水の上で羽を休めるオオワシやオジロワシが間近で見られます。

いま、「道の駅・オホーツク紋別」周辺は、自然の神秘と驚異を身近に体験できる施設が整ってきました。

皆様にもぜひ一度お立ち寄りいただき、体験していただきたいと思います。お待ちしております。

氷海海中展望塔「オホーツクタワー」と親水防波堤「クリオネプロムナード」

